テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14　備忘ログ(PATCH2.1)　メインクエスト

メインクエスト　その２

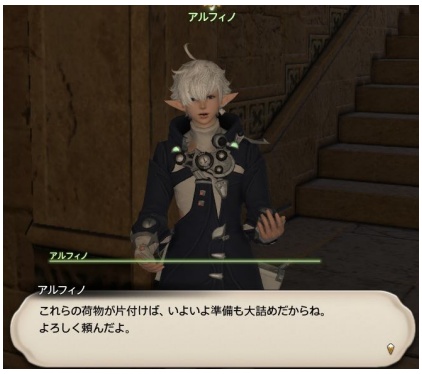
砂の家でのお片付け　～　石の家へ

©2010－2014 SQUARE ENIX CO.,LTD.All Rights Reserved. FINAL FANTASY XIV

砂の家でのお片付け

スラフボーン ： 「暁」からの移転計画書によれば、そろそろ「砂の家」側の準備も整うはず。
こちらの報告も兼ねて、一度、砂の家に戻り、状況を確認してきてもらえまいか。
移転計画は、アルフィノ殿が担当しておる。彼に話を聞けばよいだろう。それでは、「暁」の移転を首を長くして待っているぞ。

アルフィノ ： ◆◆◆、戻ったのかい。……ふむ、レヴナンツトール側の準備は完了したんだね。
こちらは少し遅れていてね。……戻ってきたばかりですまないが、手伝いを頼みたい。
「砂の家」に残っている「梱包された荷物」を回収し、管理しているタタルまで持っていってくれないか。
そうだな、あと4つほどあったはずだ。
これらの荷物が片付けば、いよいよ準備も大詰めだからね。よろしく頼んだよ。

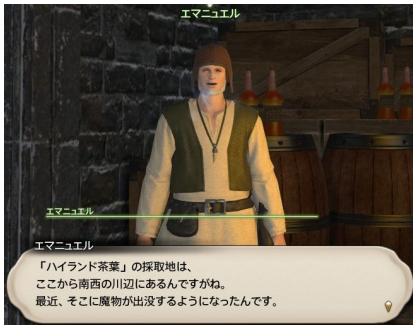


タタル ： ええっと、あとやることは……　アレと……ソレと……　ああぅ、最後の荷物も確認しないとでっす！
おおぅ、◇◇◇さん！　……その「梱包された荷物」は、最後の輸送隊に運んでもらうものでっすね！
ひぃ、ふぅ、みぃ……たしかに全部ありまっす！　助かりまっした！　ちょうど確認しようとしていたところだったのでっす。
あとは、輸送隊の手続きをしなければ……　まだまだ、作業はいっぱいでっす。
そうだ、◇◇◇さん！　……実は私からも、ひとつお願いがあるのでっす。よかったら聞いてほしいでっす。

タタルの願い

タタル ： 本部移転が決まってからというもの、引っ越しや新本部設営で、みなさんキリキリ舞い。
なのに、作業は今が山場で、休む暇もないのでっす！
……受付を担当している私のお仕事は、みなさんを元気づけ、笑顔にすることでっす。
そこで、みなさんに栄養たっぷりの薬茶を配って、元気でニコニコになってもらおうと思ったのでっすが……
なんと、材料の茶葉……　「ハイランド茶葉」が売り切れていたのでっす！
「ハイランド茶葉」は、クルザス地方に生えてるって聞いたことがありまっす。この茶葉を探してきてくれまっせんか？
クルザス地方に住んでる方なら、詳しい人もいると思いまっす。どうか、よろしくお願いしまっす！

メドグイスティル ： あら……おかえりなさい、冒険者さん。ふふ、あなたのことはちゃ～んと覚えてるわよ。
だって、オルシュファン様を助けてくださった方だもの。
……「ハイランド茶葉」が欲しいの？　ううん、ちょうど切らしてしまっているのよ。ごめんなさいね。
そうねぇ……　あの茶葉で淹れた紅茶は、お酒で割ることもあるわ。
酒商人の「エマニュエル」に相談してはどうかしら？



エマニュエル ： 「ハイランド茶葉」ですか。なんとも間の悪い……いや、申し訳ありません。あいにく、在庫を切らしておりまして。
「ハイランド茶葉」の採取地は、ここから南西の川辺にあるんですがね。最近、そこに魔物が出没するようになったんです。
茶葉を採取していると、その魔物に襲われるってんで、園芸師が敬遠してしまいまして。
こうなりますと、まあ、うちの在庫もつきますわな。
オルシュファン様たちを助けてくださった方の頼みだ、聞いてあげたいのは山々ですが、相手が魔物では……。
どうか、堪忍してくださいよ。

タタル ： 栄養たっぷりの薬茶を配れば、みなさん、きっと元気でニコニコになりまっす。◇◇◇さんだけが、頼りなのでっす！
これでっす！　◇◇◇さん、ありがとうございまっす！
さっそく、特製薬茶を作ってみるでっす！　私の手作りでっす！　気合入れて作るでっす！
フンフ　フンフ　フーン。
ひーとくち　のーめば　げーんきに　なーるのー。
ぜーんぶ　まーぜて　すーりつぶすー。
あーろえ　はーちみつ　がーらごみーんとー。
げーんきの　みーなもと　かーくしあじー。
とーどのおめめー　ぷりーんのちーにくー。
おーがのはーらわたーを　ぶーちこむのー。
フッフ　フンフ　フーン。
……おおぅ！　薬茶に夢中で、大事なことを忘れていたのでっす！
◇◇◇さんが留守の間に、なにやら緊急事態みたいでっす！！

黒衣森で覚醒するもの

タタル ： 緊急事態みたいでっす！！　グリダニアから「双蛇党」の使者がおみえになられて、みんな、ピリピリしてるでっす……。
ひょっとすると、また蛮神「ガルーダ」が！？　それとも、帝国が！？　……なんだか落ち着かないのでっす。
ともかく、ミンフィリアさんのところへ向かってお話を聞いてあげてほしいのでっす！

ミンフィリア ： ◇◇◇、探していたわ！
先ほど、グリダニアの「双蛇党」から連絡があって、どうやら、新たな蛮神が出現したらしいの……。

ウリエンジェ ： グリダニアに仇なす蛮神といえば……　イクサル族の信仰する蛮神「ガルーダ」、それに、彷徨える闘神「オーディン」。
しかし、今回のこの反応はそれらとは違うもの。測定器の反応では、これは……。

ミンフィリア ： ええ、第七霊災の直前に、これに似た反応を感知したことがあるわ。
このタイミングで新たな蛮神だなんて……。……何かの意思が働いているとしか……。
いずれにせよ、放っておけない。至急、グリダニアへ向かってくれるかしら。

ウリエンジェ ： 先に「双蛇党」の「ボルセル大牙佐」のもとへ。……イダとパパリモも、現地へ向かわせましょう。

ミンフィリア ： 相手は蛮神……戦いになるかもしれない。光の戦士である、あなたが頼りよ。……十分に気をつけてね。

ボルセル大牙佐 ： これはこれは「暁」の。使者は無事、そちらに着いたようだね。
いやあ、来てもらえて本当によかった。実は、ことはなかなか深刻でねえ……。

無垢なる爆走

ボルセル大牙佐 ： わざわざ来てもらって、申し訳なかったね。実は、精霊評議会に珍しいお客が訪れたんだ。
お客というのは、モーグリ族のクポロ・コップさ。曰く、モーグリ族に危機が訪れている、とか。
それで、僕たちに助けを求めにきたらしいんだよ。
この件で、カヌ・エ様は君の助力を求めておいでだ。……君は以前、シルフ族との交渉を成功させたからねえ。
今回のご指名は、その実績をかってのことだろうさ。
詳細は、カヌ・エ様が御自ら説明してくださるそうだ。豊穣神祭壇へ行って、そこにいる道士に
カヌ・エ様がおわす「不語仙の座卓」への案内を請いたまえ。

物静かな道士 ： 冒険者◆◆◆か。皆様がお待ちかねだぞ。さっそく「不語仙の座卓」へ向かうか？

ラヤ・オ・センナ ： 大慌てしてるモーグリ族たちを見てられなくて、あたしがここへ、クポロ・コップを連れてきたの。

パパリモ ： モーグリ族から、もたらされた報せは、実に興味深い事例だよ……。

イダ ： モーグリ族って、気ままな生き物だと思ってたけど……　意外と繊細なところもあるんだね！

クポロ・コップ ： クポポ～！　大変クポ～、大変クポ～。どうなっちゃうクポ～！？

モーグリのクポロ・コップ ： 来てくれてありがとうクポ！　助けてほしいのクポ！　このままじゃ、森で大戦争が起こっちゃうクポ！

ラヤ・オ・センナ ： クポロ、落ち着きなさい！　それじゃ、ぜんぜん分からないわ！　……カヌ・エ姉様、説明をお願い。

カヌ・エ・センナ ： 急なお呼び立てに応じていただき、感謝しております。「暁」の協力が必要な事象が起こったのです。
ここにいるモーグリ族のクポロ・コップが、私どもの下に、凶報をもたらしてきました。
それは、「善王モグル・モグXII世」の召喚……。

ラヤ・オ・センナ ： 善王モグル・モグXII世……聞いたことあるかしら？　モーグリ族の伝承に登場する、モーグリ族の王様よ。

モーグリのクポロ・コップ ： モーグリ族には、語り継がれている伝説があるクポ。その伝説によれば、むかしむかしモグたちモーグリ族は、
天界で暮らしてたクポ。
でも、いつの日か、神様がらんちき騒ぎをして、モーグリ族は天界で暮らしにくくなったクポ。
そのとき、天界から糸を垂らして、モーグリ族を地上に導いてくれたのが、モグル・モグXII世といわれる王様クポ！
王様は糸を支えて、最後まで天界に残ったといわれているクポ。
そして伝説の最後は、こう締めくくられているクポ。モグたちが窮地に陥ったとき、
天界に残った王様が助けに来てくれる……クポ。

パパリモ ： どうやら僕たちが呼ばれた理由は、伝説だったはずのモーグリ族の王様ってのが本当に助けに来ちゃったってことらしい。

イダ ： しかも、とびきり過激な王様がね！

カヌ・エ・センナ ： そう、モーグリ族に伝わる伝説……　つまり、おとぎ話に出てくるモーグリ族の王様が蛮神と同じように召喚されてしまった。
これは「実在しない存在を顕現する」という意味で、蛮族の行う「蛮神召喚」と同じ現象と考えられます。

イダ ： 神様として崇めてたわけじゃないのに、クリスタルを捧げて、お祈りしたら出てきちゃうだなんて、もうメチャクチャだね。

パパリモ ： でも、◆◆◆のおかげで、イクサル族の呼び出した蛮神「ガルーダ」は倒され、残留している帝国軍も静かになっている状態だ。
蛮神と同じような現象とはいえ、モーグリ族が窮地に陥っているなんて話は……。

ラヤ・オ・センナ ： ……それよ。短い期間に黒衣森を、いえ、エオルゼア全土を巻き込んだ大きな戦いが立て続けに起こった。
渦中にあったあなたたちにとっては、今は落ち着いている状態と言えるでしょうけど、
周りからみれば、いつまた戦いが起こるかわからない。
みな、平穏に暮らしているかのように見えて、怯えているわ。
善王モグル・モグXII世を呼んだのは、「モーグリ家臣団」と自称している連中らしいの。
モーグリ族の彼らも、私たちと同様。また黒衣森が戦場になることを恐れているのよ。
自分たちが窮地に追い込まれたと思うくらいにね。

モーグリのクポロ・コップ ： モーグリ家臣団も森を守りたいだけクポ。前から、ちょっとカゲキなヤツらだったけど、
王様が来てから、どんどんカゲキになってるクポ……。

イダ ： 彼らの目的は、シルフ族と同じなんだね。自分たちの森を守りたいだけ……か。

パパリモ ： なるほど……。しかし、その王様が蛮神と同じ存在だとすると、モーグリ族もテンパードにされる可能性がある。

カヌ・エ・センナ ： ええ……。それだけは、なんとしても避けなければなりません。
このまま「善王モグル・モグXII世」を放置すれば、モーグリ族全体のテンパード化も懸念されます。
戦火が森に広がる前に、ぜひ「抑止」をお願いしたいのです。
感謝いたします。
善王モグル・モグXII世についての作戦は、「碩老樹瞑想窟」の「エ・スミ・ヤン」が整えております。
詳細は彼にお聞きください。

エ・スミ・ヤン ： お待ちしていましたよ、◇◇◇。今回のご協力、みなと精霊にかわり感謝します。
モーグリ族は本来、争いを好まないものです。それが神降ろしに頼るとは……
森の状況が深刻だという、なによりの証でしょう。
一刻も早く、事態を収拾しなければなりません。出陣の準備が整いましたら、私に声をかけてください。

善王モグル・モグXII世による粛清

エ・スミ・ヤン ： 準備は、もう良いのですね？　……それでは、作戦を説明させていただきましょう。
善王モグル・モグXII世の居所は、結界にて隠されています。それを解除できるのは、結界を張った者と同じ者たち……
モーグリ族のみです。
ここは、クポロ・コップの力に頼るほかありません。　……彼は「家臣団」とも親しい仲だったそうですから、
今回の討伐への協力はさぞや辛いでしょう。
しかし、善王の暴走を止めることは、彼の望みでもあるのです。ならば私たちは、その信頼に全力で応えねばなりません。
「クポロ・コップ」を、旧市街の東桟橋で待たせています。さあ、彼と合流し、善王への道を切り拓いてください。

クポロ・コップ ： 王様がいる場所は、結界で守られていて見えないクポ。その結界を、モグが解くクポ！
まずは、結界がある東部森林の「茨の森」の奥まで、モグのことを護衛してほしいクポ！
モグは先に行って、東部森林の「花蜜桟橋」で待ってるクポ。

クプタ・カパ ： 森を危機から守るオレたちの使命を邪魔するなら、幼馴染だって、容赦しないクポ！

クポロ・コップ ： やめるクポー！　王さまはクリスタルを食べて、森を枯らしてしまうクポ！　それが、わからないのクポ！？

クプロ・キップ ： いまだにヒトと仲良くしてるなんて、モーグリ族の風上にも置けないクポッ！

クプタ・カパ ： 森を荒らす帝国も、それを追い出せないヒトもシルフ族も、みんな同じクポッ！

クプロ・キップ ： 乱れた森の秩序を守るのは、家臣団の使命クポ！　邪魔するおまえも敵だクポーッ！

クプディ・クープ ： もうすぐ善王さまの粛清が始まるクポ！　これ以上の邪魔は、容赦しないクポーッ！

クポロ・コップ ： 急いで、善王モグル・モグXII世の粛清を止めなきゃクポ！　茨の森の最深部まで、護衛をよろしくクポ！
もしはぐれたら、ここで待ち合わせクポ！　着いたら、結界の結び目に触れるクポ。

クポロ・コップ ： 着いたクポ～！　ここまで来れば、護衛はもう不要クポ。結界を開く準備にとりかかるクポ！

クポロ・コップ ： さっそく結界を解いて、王さまのもとへの道を開くクポ。キミにも手伝ってほしいクポ。
さあ、「結界の結び目」に向かって手をかざすクポ！　モグの魔力をキミの身体へ注いで、結界を開くクポ！

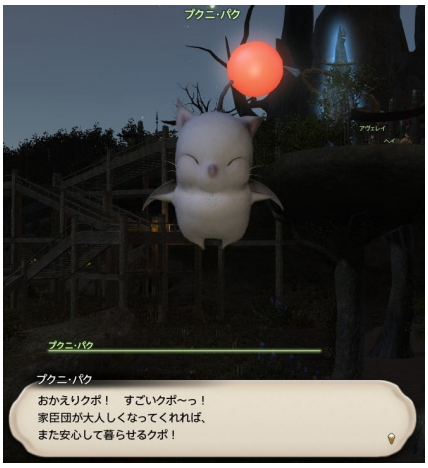
クポロ・コップ ： この先に、善王モグル・モグXII世がいるクポ。王さまをやっつけて、家臣団にお仕置きしてくるクポ！

クプタ・カパ ： 来やがったかクポ
冒険者くせえヤツらクポーッ！！
クプディ・クープ ： 善王様に粛正されちまえクポーッ！！

善王モグル・モグXII世 ： メメント・モーグリ！　モグを記憶せよクポーッ！
善王モグル・モグXII世 ： 家臣たちよ、ワルモノを裁くクポーッ！
善王モグル・モグXII世 ： 家臣たちの忠義を、力に変えるクポーッ！
善王モグル・モグXII世 ： 家臣たちよ、ワルモノを裁くクポーッ！

クポロ・コップ ： 王さまを倒したクポね？　すごいクポ！　本当にありがとうクポ！
家臣団も、罪を重ねないで済んだクポ。……よかったクポ～。
モグは家臣団にお説教してくるクポ！！　連中も、これに懲りて大人しくなるといいのクポ！
王さまを倒したこと、仲間の「プクニ・パク」に伝えてクポ！　ラヤ・オと一緒にキャンプ・トランキルにいるクポ。
よろしく頼んだクポッ！

プクニ・パク ： おかえりクポ！　すごいクポ～っ！　家臣団が大人しくなってくれれば、また安心して暮らせるクポ！
ささやかだけど、お礼を受け取ってほしいクポ！　それから、ラヤ・オもお話ししたがってるクポ。
声をかけてみるクポよ～。



邪なる手引き

ラヤ・オ・センナ ： 善王モグル・モグXII世の討伐、ご苦労様。「カヌ・エ姉様」へも、あなたから詳しく報告してあげてくれない？
いつものように、グリダニアの豊穣神祭壇にいる道士に申し出れば、「不語仙の座卓」へ通してもらえるようにしておくわ。

物静かな道士 ： 善王モグル・モグXII世の討伐、ご苦労だった。皆様がお待ちかねだぞ。さっそく「不語仙の座卓」へ向かうか？

パパリモ ： 今回は、ご苦労様だったね。それにしても、いったい誰が家臣団に蛮神の召喚方法を教えたんだろう……。

イダ ： お帰り！　善王討伐について、いろいろ聞きたいところだけど、とにかく、まずはカヌ・エ様に報告してあげて。

クポロ・コップ ： みんなで待ってたクポ！　早くカヌ・エに報告してあげてクポ！

カヌ・エ・センナ ： ◇◇◇殿、ご苦労様でした。「善王モグル・モグXII世」を抑えていただけたこと、連絡を受けております。
さっそくですが……　戦況を詳しく報告していただけますか？
……そのようなことが。

イダ ： やっぱりさぁ。その王様って、どう考えても「蛮神」だよね～。
「神様じゃない蛮神」って感じ？　ややこしいけど。

パパリモ ： 信じる心と強き願いが、クリスタルのカを糧にして、見えぬ存在を具現化する……。まさに「蛮神召喚」だ。

カヌ・エ・センナ ： 問題は、その「神降ろし」の方法を、一体だれがモーグリ族に教えたのかということ……。

イダ ： それってまさか……。

パパリモ ： エオルゼア各地に出没している仮面の男……　混沌の種を蒔く存在、アシエン！

モーグリのクポロ・コップ ： そういえば、家臣団が5年前にへんちくりんな仮面の男から、王様の呼び方を教わったって言ってたクポ！

パパリモ ： くそっ……。やはり、奴ら……アシエンを叩かないことには、蛮神の乱立は止められないのか。

カヌ・エ・センナ ： 闇を根絶しないかぎり、私たちが戦うべき蛮神は、この先も増え続ける……。
報告、承りました。依頼を解決していただいて感謝しております。……双蛇党も気を引き締めなければなりませんね。

イダ ： それはそうと、カヌ・エ様。例の件は、決めていただけましたか？

カヌ・エ・センナ ： ええ、もちろんです。レヴナンツトールへの「暁」本部移転に必要な物資は、今回のお礼も兼ねて、支援させていただきます。

イダ ： ありがとうございます、カヌ・エ様。

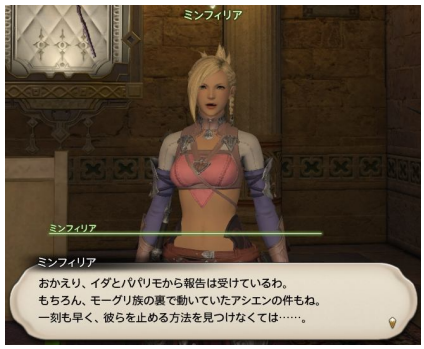
パパリモ ： これで、砂の家で待つ「ミンフィリア」にも、いい報告ができそうだよ。君から、直接話してあげてくれないかい？

クポロ・コップ ： 家臣団のヤツらは、反省してたクポ！　ヤツらがまた王様を召喚しないように、モグが目を光らせておくクポ。

イダ ： グリダニアからの支援物資があれば、レヴナンツトールへの移転もはかどるはずだよ。

カヌ・エ・センナ ： レヴナンツトールへの「暁」本部移転……　すみやかに完了することを祈っています。

ミンフィリア ： おかえり、イダとパパリモから報告は受けているわ。もちろん、モーグリ族の裏で動いていたアシエンの件もね。
一刻も早く、彼らを止める方法を見つけなくては……。
でも、あせっても仕方ないわね。本部移転の件で、グリダニアからの物資援助を取り付けられたことだけでも、喜ばなくっちゃ。
本当にありがとう、◇◇◇。やはり、あなたには人と人とを結びつける力があるようね。
これからも、頼りにしているわよ。



失われし伝承と存在

ミンフィリア ： グリダニアからの支援も受けられそうだし、そろそろ、準備万端と言ってもいいかしら。
……なにもかも、あなたが頑張ってくれたおかげね。
わたしたちは、いくつかの班にわかれてレヴナンツトール入りする予定よ。
大きなキャラバンでも組もうものなら、人にとっても、魔物にとっても、格好の的となってしまうもの。
班の護衛役と非戦闘員以外は、それぞれ単独で現地へ向かってもらいます。
光の戦士たるあなたは……当然、後者ね。
わたしたちが移転したあと、この砂の家は、「暁」に所属する冒険者の集いの館として解放する予定よ。
ウリエンジェさんには、引き続きここの執務長を任せます。
ウリエンジェさんから、強い申し出があってね。いっしょにレヴナンツトールに行くよう説得したのだけど……
ここの執務長をやりながら、蛮神問題の解決に向けて、調査に専念したいらしいの。
それに、まだやり残していることがあるとも言っていたわ。……きっと、アリゼーの件ね。
何かあれば駆けつけてくれるらしいから、ここは彼に任せて、わたしたちは安心して出発しましょう。
……さてと、準備が整ったことをウリエンジェさんに伝えてきてもらってもいいかしら？
あなたと入れ違いだったから、まだその辺にいると思うわ。

ウリエンジェ ： 準備……委細承知しています。移転ののちに、この家を訪ね来る者については、私がレヴナンツトールへ案内する手はず……。
旅立つあなたに、この言葉を贈りましょう。……歴史は記憶に依って成るもの。ひるがえって、人もまたしかり。
記憶に依らぬは、薄絹の宵闇にひるがえるがごとく。いずれは、闇に溶け行く運命（さだめ）。
されど、薄絹は暗中に変わらず在り。しかして……其は人に、歴史に通ず。
……ふふ、今日ばかりは趣向を変え、あなたの言葉で語りましょう。
どうか、この砂の記憶を、お忘れになりませんよう……。

ミンフィリア ： キャァァァァ！

ウリエンジェ ： 今の悲鳴は……ミンフィリア？

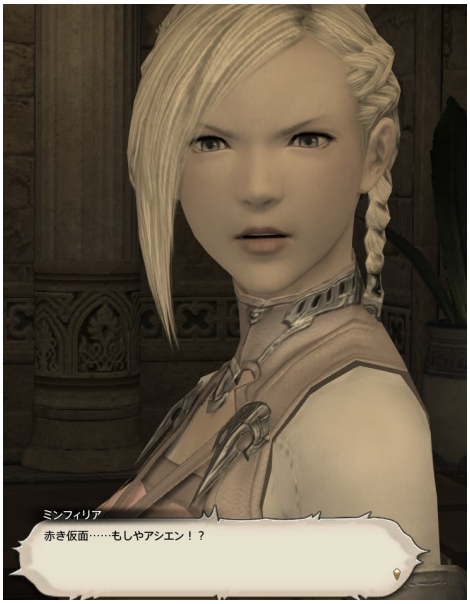
ミンフィリア ： だ、大丈夫よ……。

（超える力）

ミンフィリア ： 持っていくものは、これで最後ね。……ルイゾワ様、少しの間、窮屈でしょうが、我慢してくださいね。

？？？？ ： ……それが賢人ルイゾワが持っていたという、名杖「トゥプシマティ」か……。

ミンフィリア ： 赤き仮面……もしやアシエン！？



？？？？ ： ほう、私の姿を認識できるか。……やはり「超える力」の持ち主なのだな。

ミンフィリア ： でも、その白き衣は……。

？？？？ ： 人の伝承には伝わっていないのか？　まぁ、私がこの世界に来たのも数千年ぶりだ。仕方あるまい。
待ちたまえ、私は調停者だ。黒法衣どもとは違って、君たちと戦う意志はない。

ミンフィリア ： 黒法衣……アシエン・ラハブレアのこと！？

？？？？ ： 彼に痛手を負わせてくれたようだな。ずいぶんと悔しがっていた。
だが、奴等にとっては、いい薬となっただろう。

ミンフィリア ： 悔しがってって……まさか！　アシエン・ラハブレアはあの人が倒したのよ！？

？？？？ ： 深淵の司祭を退けた君たちだ。少しは我々のことを理解していると思ったが……。
我々は不死なる存在。人への憑依……闇のクリスタルを破壊したところで、その存在が滅するものではない。

ミンフィリア ： そんな……。

タタル ： ミンフィリアさん、荷物を送る準備ができたでっす。そろそろ出発するでっす。
……どうかしたでっすか？
ミンフィリアさん、具合でも悪いでっすか？　お疲れでっすか？　このところ、引っ越しの準備で忙しかったでっすもんね。
少し休憩するといいでっす。荷物は私が送っておくでっす！

？？？？ ： あの者に、なぜ私が見えないか不思議か。……あの者は私という存在を「認識」していないからだ。

ミンフィリア ： ……認識……ですって？

？？？？ ： そう、肉体という古き器を持たぬ我々は、人にとって「不確か」な存在。
時には、亡霊のごとき姿に。時には、影無き人の姿に……。見るものによって、その在り方を変える。
私のことが伝承に伝わっていないなら、なおさらだ。君たち人にとって、私は「存在していない」のだから。

ミンフィリア ： なんてことなの……。

？？？？ ： しかし、超える力を持つ者は違う。超える力は、その壁ですら超えることができる。
わずかなきっかけがあれば、我々の正しき姿を認識できよう。

ミンフィリア ： 超える力……。この力はいったい……。

？？？？ ： 君たち人は、その力の真なる能力を引き出してはいない。受け入れるのだ……「超える力」を。

ミンフィリア ： 受け入れるですって？

？？？？ ： その時、我々と君たちは、目的をひとつとした同志となる。そうなれば、もはや争うこともないだろう。
私は調停者……君たちと戦う意志はない。今日は、そのことを伝えに来ただけだ。いずれまた会おう。

ミンフィリア ： ま、待ちなさい！
キャアアアア！

？？？？ ： やはり、超える力を持つ者を取り込むことができぬようになったか……。
「アーダー」も考えものだな。
（超える力終わり）

ミンフィリア ： その感じ……過去視で見たのね？　……フフフ、説明する手間が省けたわ……。
どうやら、私を殺すつもりはなかったようね……。もう大丈夫よ。

タタル ： ミンフィリアさん、ダイジョブでっすか！？　今の悲鳴はなんでっすか！？
目眩でっすか？　立ち眩みでっすか？　お疲れなら、ぜひ、このタタル特製薬茶を……。

ミンフィリア ： ウリエンジェさん、お願いがあります。委員会に連絡して「禁書」の閲覧許可をもらって。
わたしたちは、もっと知る必要があるわ。アシエンを……彼らのことを。

ウリエンジェ ： ……まさか、先ほどの悲鳴はアシエンに？
ここに来る途中、何者かの気配が街の方へ。……もしや、あれがアシエンでは？

ミンフィリア ： ◇◇◇、追って！　あの白き衣のアシエンからは、嫌な感じがするの！

ウリエンジェ ： ……タタル嬢、手伝いを頼みます。

タタル ： なんだか、胸がドキドキするんでっす。怖いことなんて……もう起こらないでっすよね？

？？？？ ： ……来たか、冒険者。
ちょっとした趣向を用意しよう。我が下僕たちを倒し、私を追ってくるがいい。
……君の力が本物かどうか、見せてくれたまえ。

白き衣のアシエン ： ……せっかくの趣向も、君にとっては、余興にもならなかったかな。
どうやら本物のようだ。さすがは、深淵の司祭を退けたという冒険者……。
君も威勢がいいな。……彼女の過去を視たのだろう？
私に戦う意志はない。勇敢な君の顔を拝みたかっただけだ。
ラハブレアは、黒法衣どもの中でも特異な者……。光の加護を受けていたとはいえ、
まさか、我々を打ち破る「人」が存在するとはな。
ハイデリンの光の使徒……。しかし、君は感じているだろうか。ハイデリンの干渉が、減りつつあることを……。
直にハイデリンは失われる。……いや、本来の姿に戻るのだ。
ハイデリンだけではない。星も、世界も、人も……すべては、あるべき姿に戻る。
私は黒法衣どもとは違う。すべてを理のもとで正しき道へと導くだけだ。

ｱシエン・エリディブス ： 私は、アシエン・エリディブス。真なる神と人とを紡ぐ調停者……。
いつかゆっくりと話をしよう。誰にも邪魔をされないところで、ゆっくりとな。

タタル ： ◇◇◇さん！　ご無事で、なによりでっす！　ミンフィリアさんがお待ちかねでっすよ。

ミンフィリア ： よかった……無事に戻ってきたのね。実はあのあと、とても心配していたの。
本当にごめんなさい、◇◇◇。動転していたとはいえ、危険なお願いをしてしまって。
……それで、あの白き衣のアシエンは……？
……ハイデリンが本来の姿に戻る、ですって？　星も、世界も、人もあるべき姿に戻るなんて……　いったい、どういう意味なの……？
アシエン・エリディブス……　黒き衣のアシエンとは、行動を異にしているようだけど、
話を聞くかぎり、やはり味方とは思えないわ。
ともかく、彼についてはこちらで調査を進めます。あなたは戦いの疲れを癒して。ありがとう、◇◇◇。

石の家へ

ミンフィリア ： アシエン・エリディブスのことは気になるけど、こっちも進めないとね……。
そう、「砂の家」での仕事も、残すところあとひとつよ。
……ここに一冊の手記があります。著者は、ガレマール帝国の密偵でありながら、
アラミゴ解放軍へ帝国の情報を流していた男、わたしの父よ。
父は任務のためにウルダハへやってきて、不慮の事故に遭い、亡くなったわ。死の間際に、この手記をわたしに託して、ね。
ここには、15年前に父や反帝国派の人々が集めた情報がつづられているの。
……それに、帝国側が持つ蛮神の情報もね。
古い情報だけど、今後の調査に役立つかもしれない。これを「砂の家」に残って蛮神の調査を続ける
ウリエンジェさんに託そうと思うんだけど……
この「砂の家」最後の仕事は、◇◇◇、あなたにお願いしたいの。「砂の家」で生まれた、光の戦士たるあなたに。
わたしは、調べることがあるから先に出ます。……よろしく、お願いするわね。

ウリエンジェ ： ……やはり。ミンフィリアは、あなたに託したのですね。さあ、最後の仕事を私とあなたの手で……。
……今を惑う者、過去のささやきにこそ耳を傾くべし。古き友の遺志、新たな友の意志、
私が知るべき物語に、この手記も加えておきましょう。
さあ、あなたは出立を。タタル嬢が先行してレヴナンツトールへ入っています。
彼女へ問えば、新しき石の扉は開かれるでしょう……。

ミンフィリア ： ……聞こえる？　わたしよ、ミンフィリア。
そろそろ、ウリエンジェさんとのお話が終わったころかと思って連絡したの。……「砂の家」最後の仕事、おつかれさま。
あなたには、これまで幾度となく砂の家にきてもらったけど、これが最後なんて、少し寂しいわね。
そうそう、さっそくなんだけど……。
あなたに伝えたいことがあるの。一度、「石の家」に来てくれるかしら。
フフ、心配しないで。テレポの……エーテライトの利用料金くらい支給するわ。

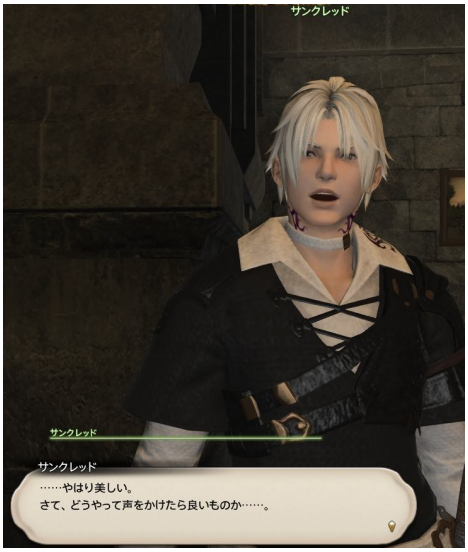
タタル ： お待ちしていたのでっす！　こちらが、私たちの新しい拠点……　「石の家」の入口となっておりまっす！
ミンフィリアさんも、ほかのみなさんも、首を長ーくしてお待ちでっすよ。さっそく中へズズイっと、どうぞでっす！

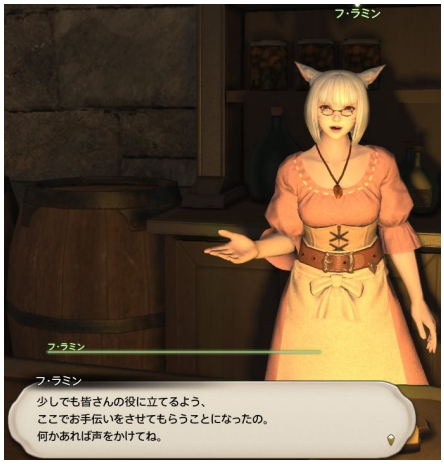
クルトゥネ ： 砂の家のウリエンジェさんの勧めで、「暁」に加わることになりました。
はやく皆さんに馴染むことができるよう、がんばります。

ヤ・シュトラ ： シャーレアンから、新しい資料を取り寄せたの。今後は私たちの活動範囲も広がるでしょうから、
しっかり知識を身につけておかないとね。

サンクレッド ： ……やはり美しい。さて、どうやって声をかけたら良いものか……。
……っと、なんだお前か。何か用かい？

フ・ラミン ： 少しでも皆さんの役に立てるよう、ここでお手伝いをさせてもらうことになったの。何かあれば声をかけてね。



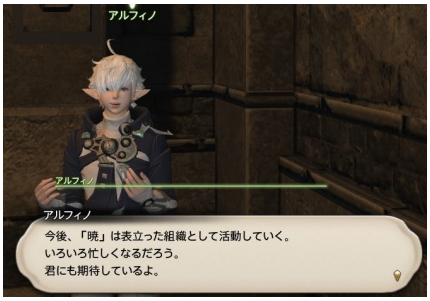


パパリモ ： 独立した中立の組織ってことは、責任も自分たちにあるってことだ。……はぁ、まったく、イダは気楽でいいよ。

イダ ： 新しいところは、なんだかウキウキするね！　特訓もはかどるよ！

ホーリー・ボルダー ： ハァ……ハァ……。イ、イダさんの体力は底無しなのか……。

アルフィノ ： 今後、「暁」は表立った組織として活動していく。いろいろ忙しくなるだろう。君にも期待しているよ。



ミンフィリア ： みんな、そろったわね。……前より、少し広くなったかな？
今日から、この「石の家」が、わたしたち「暁の血盟」の本部よ。
独立した我らは、三都市と対等な立場となった。今後、「暁」は表立った組織として交渉、活動していく。

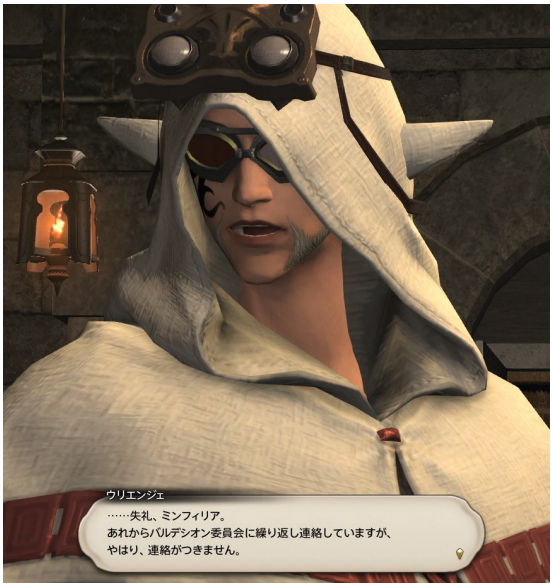
アルフィノ ： 政治のことは私に任せ、皆は、これまでと同様に目的のために尽力してほしい。

ミンフィリア ： わたしたちの目的は変わりません。神々に愛されし地、このエオルゼアを救済すること。
以前にも増して、みんなでがんばっていきましょう！

一同 ： オーッ！！

ミンフィリア ： あなたに話しておくことがあるわ。……アシエンのことよ。

ウリエンジェ ： ……失礼、ミンフィリア。あれからバルデシオン委員会に繰り返し連絡していますが、やはり、連絡がつきません。



ミンフィリア ： そんな、本部にも？
……おかしいわ。友人に連絡をしてみます。
ダメだわ……リンクシェルに応じない。友人にも、本部のどの部署にも繋がらないだなんて……。

ウリエンジェ ： ……何かあったのでは。

ミンフィリア ： あそこは、強力な魔法障壁によって、外界から閉ざされているのよ。
いかなる存在であっても……　そう、アシエンであっても、進入できないはず……。
……これも、わたしたちの「認識」がおよばない存在の仕業だとでもいうの？
支部を経由して確認をとってもらいます。万が一に備えて、本部へ向かってもらうわ。
……アシエンのことは、別口で探るしかないわね。ウリエンジェさん。

ウリエンジェ ： ……ええ、わかっています。シャーレアン本国に連絡をしてみるとしましょう。
彼らがどこまで協力してくれるかはわかりませんがね。

ミンフィリア ： お願いします。
あなたに、アシエンのことを伝えておきたかったの。わたしたちが、彼らに対してどうするかをね。
あなたが戦った、黒き衣のアシエン・ラハブレア。……そして、先に現れた白き衣のアシエン。
彼らは複数存在している。そして、アシエンは不滅の存在……。
あなたがサンクレッドを救うために倒したラハブレアも、この世界から一時的に消されただけで、
その本体が消滅したわけではない。
彼らをこの世界から完全に消滅させるためには、ただ闇のクリスタルを破壊するのではなく、
根本的に方法を変えなくてはならないわ。
アシエンの完全消滅……。その方法を探るのが、次にわたしたちが取り組む目標よ。
すべては、エオルゼアの救済のために。
先に顕現した「善王モグル・モグXII世」。大きな反応を見せているという「クリスタルタワー」。
そして、人の伝承に無い「白き衣のアシエン」……。
ここ最近、立て続けに起きている事象は、けっして偶然が重なったのではないわ。
このエオルゼアに降りかかろうとしている、大きな闇……。それによって起こされた「覚醒」だとわたしは、思っています。
◇◇◇……。この先、また必ずあなたの力が必要になる。これからも協力をお願いできるかしら。
ありがとう……。
何か話が進展したら伝えるわ。それまで、冒険者として、あなたの腕を磨いておいて。
委員会本部に一体何が……。……クルル、無事でいて……。

ｱｼｴﾝ・ナプリアレス ： 例の冒険者に会ってきたそうじゃないか。

ｱｼｴﾝ・エリディブス ： ……ナプリアレスか。何か用か。

ｱｼｴﾝ・ナプリアレス ： 別に用はないが……ただ、俺たちが動く前に、調停者殿がしゃしゃり出てくるとは驚きでね。

ｱｼｴﾝ・エリディブス ： 奴等は七度の「アーダー」を生き延び、また力をつけた。……侮れぬぞ。

ｱｼｴﾝ・ナプリアレス ： フンッ……。いけすかねぇ野郎だぜ。

ｱｼｴﾝ・エリディブス ： お前たちは、お前たちで動けばいい。それが、ゾディアーク様の命なのだから……。
私も私で、やらねばならぬことがある。お前たちとは異なる、私に課せられた命を遵守するために。
……そう、人を「覚醒」するために。